

令和6年度 自己点検・評価結果報告書【国際】

推進責任者：グローバル推進機構長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

| 自己点検の観点 | 自己点検・評価項目 | 実施方法 | エビデンス | 判定結果 |
|-------------|---|----------------------------------|--|--|
| グローバル化の達成状況 | (1) 日本人学生の海外派遣を拡大すること | 英語力基準を満たす学生数の割合を確認する。 | 【別添1】 ・英語力基準を満たす学生の割合（令和5年度実績） ・令和5年度オンライン英語教材登録者数 ・令和5年度TOEIC IP実施状況 | 適切である 理由：令和5年度の英語力基準を満たす学生数の割合が6.3%（603人/9,614人）であり、目標値6%を上回った。学生の英語力強化に向け、前年度に引き続き令和5年度もオンライン英語教材を提供するとともに、全学部生を対象にTOEIC IPテストを実施した。 |
| | | 日本人学生の海外渡航経験者数の割合を確認する。 | 【別添2】 ・日本人学生の海外渡航経験者数の割合（令和5年度実績） | 適切である 理由：令和5年度の日本人学生の海外渡航経験者数の割合が4.1%（391人/9,614人）であり、目標値4%を上回った。 |
| | (2-1) 優秀な外国人学生を増加させること | 外国人正規学生数の割合を確認する。 | 【別添3】 ・令和5年度外国人留学生数（正規生・通年） ・令和5年度留学フェア等参加実績 | 適切である 理由：令和5年度の外国人正規学生数が430人であり、目標値390人を上回った。 |
| | (2-2) 英語のみで卒業可能な学部コースを新たに設置すること | 英語のみで卒業可能な学部コースの設置に向けた状況を確認する。 | 【別添4】 ・地域のグローバル化に貢献する教育研究機能の強化 全体構想案（R6.6.27教育研究評議会資料9(抜粋)） | 適切である 理由：共創学環（仮称）の設置構想において、英語のみで卒業できる教育プログラムの設置が検討されている。 |
| | (2-3) 海外ネットワークを強化、拡大すること | 海外同窓会支部の設置に向けた状況を確認する。 | 【別添5】 ・ベトナム同窓会及びタイ同窓会の設立記念式典に係る広報記事（本学ウェブサイト） ・熊本大学リエゾン・プロフェッサー規則 | 適切である 理由：令和5年度にベトナム同窓会及びタイ同窓会を設置した。加えて、国際ネットワークの構築・強化のため、リエゾン・プロフェッサー制度を創設した。 |
| | (3-1) ジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)を新たに設置すること | ジョイント・ディグリー・プログラムの設置に向けた状況を確認する。 | 【別添6】 ・ジョイント・ディグリー・プログラムに関する会談記録（R6.8.7） | 適切である 理由：医学教育部において、ジョイント・ディグリー・プログラムの設置が検討されている。 |
| | (3-2) ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)による交流学生数を増加させること | ダブル・ディグリー・プログラムによる交流学生数を確認する。 | 【別添7】 ・ダブル・ディグリー・プログラムによる交流状況一覧 | 適切である 理由：令和5年度のDDPによる交流学生数が13人であり、目標値13人を達成した。 |

2.結果総括

| | |
|-----------|--|
| 【優れた点】 | 「日本人学生の海外派遣の拡大」「優秀な外国人学生の増加」「海外ネットワークの強化・拡大」「ダブル・ディグリー・プログラムによる交流学生の増加」については、令和5年度において目標値を達成した。 |
| 【改善を要する点】 | 「日本人学生の海外派遣の拡大」「優秀な外国人学生の増加」については、スーパーグローバル大学創成支援事業による財政支援が令和5年度で終了したことから、目標の継続的な達成のため限られた予算のより効果的・戦略的な活用が必要となる。 |